

## インターネットトピック: Messaging Anti-Abuse Working Group

### ■MAAWGとは

世界的な迷惑メールの増加を背景に、IJを含む国際的な電気通信事業者やISP等19社は、2004年1月19日にMAAWG (Messaging Anti-Abuse Working Group) \*1を設立しました\*2。IJはMAAWGの創設メンバーとして、これまで5年間継続してMAAWGの活動に参加しています。今回は、MAAWGの活動内容や2009年6月に開催された16th General Meetingの様子を紹介します。

MAAWGのメンバーは、主要ISPやESP (Email Service Providers)、メール配信業者やベンダ等、メールに関わる様々な企業によって構成されています。その数は、2008年末で161社まで増えています。MAAWGの活動は、主に迷惑メール(スパム)やウイルス等、メールの不正利用の対策が主体ですが、近年はそれらの送信元となっているボットネットの対策や、その原因となるマルウェア(不正プログラム)等多くの問題が議題になります。活動の成果として、MAAWG提言書(Recommendation)やベストプラクティス、ホワイトペーパー等、様々な文書を発表しています。これらはメンバー以外にも公開されており、MAAWGのウェブサイトから入手できます。

このように、現在のMAAWGメンバーは、メールに関わる様々な側面をもった企業が参加しています。技術的な事柄を議論するTechnical Committee、運用的な問題を議論するCollaboration Committee、法執行関係者や国際機関との連携等の活動を行うPublic Policy Committee等、メンバーがそれぞれの分野で議論を行っています。また特徴的なのが、送信事業者が集まるSenders SIGや、逆にISPに参加が限定されたISP Closed Colloquiumが開催される等テーマや参加者の役割に応じた、様々な議論が行われています。

MAAWGメンバーは、1年に3回開催されるGeneral Meetingで顔を会わせますが、それ以外にも普段からメーリングリストで、情報交換や各種文書の意見交換を行っています。また、メンバー間で直接連絡が取り合えるように、Abuse Contact Databaseが作られ、ISP間でメールの疎通がうまくいっていない場合に、状況確認に活用される等、国際的なメール環境の向上にも貢献しています。

### ■16th MAAWG General Meeting

MAAWGメンバーが直接顔を会わせることができるGeneral Meetingは、MAAWGにとって貴重な機会となっています。近年は2月頃と10月頃に北米で、6月に欧州での開催が定着してきています。今回は、6月8日から6月11日にオランダのアムステルダムで開催された16th General Meetingの様子を紹介します。

MAAWGの設立当初は、誰でも参加できるオープンなセッションもありましたが、現在はMAAWGメンバーと招待されたゲストだけが参加できる会合になっています。会合の内容をメンバー外に公開することも禁止されているため、セッションの内容について触れることはできませんが、概要について紹介します。

欧州での開催は、ITUやOECD等の国際機関の本部があることもあり、行政府関連の参加者が多くなる傾向があります。今回も欧州評議会や欧州刑事警察機構(ユーロポール)、米国FTCやオランダOPTA(独立郵便・電気通信庁)等、多くの組織が参加し、それぞれの取り組みなどについて発表しました。今回は、これまでの欧州開催で最も多い、19カ国、270名以上の参加となり、関心の高さ、逆にいえばこの分野の問題の深刻さを表しています。

General Meetingは、通常3日間開催され、朝の8時半から夕方の6時頃まで様々な議題のセッションが続きます。ほとんどがメールに関係した内容であり、複数のセッションが平行して開催されるため、この期間はほとんど会場のホテルに缶詰状態になります。メンバー間の親交を深めるためのSocial Eventも開催され、外に集まって日頃抱えている問題の解決や、各企業間の協調等の機会にもなっています。

日本で迷惑メール対策の活動を行っているJEAG\*3 (Japan Email Anti-Abuse Group)は、このMAAWGの設立を背景に創設されました。MAAWGとの連携も行っており、JEAGのメンバーがMAAWGのGeneral Meetingにゲストとして参加したり、JEAGの活動や日本での取り組みの紹介等を行っています。IJは双方の設立メンバーとして、日本と国際組織の橋渡し役としても、精力的に活動していきます。

執筆者:

櫻庭 秀次(さくらば しゅうじ)

IJネットワークサービス本部 メッセージングサービス部 サービス推進課  
シニアプログラムマネージャ



\*1 <http://www.maawg.org/>

\*2 <http://www.ij.ad.jp/news/pressrelease/2004/0119.html>

\*3 <http://www.jeag.jp/>